

情勢報告（平成27年10月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

お茶の産地視察型商談会を開催－自園自製生産者と量販店バイヤーが商談を行いました－



茶園を視察するバイヤー達

9月29、30日、佐川町ならびに越知町の自園自製生産者2戸と県内外量販店5社の仕入れ担当者（バイヤー）との商談を行いました。これは、地産地消・外商課の産地視察型商談会事業を活用し、生産者から自製茶の魅力をアピールし、バイヤーから質問や魅力向上の改善点などをアドバイスする形式で行いました。量販店での販売は今後個別に対応していくことになりました。

現在、管内の茶産業は茶農家、茶葉の生産量、販売量が減少し、かつリーフ茶の需要も低迷していますが、普及所では茶葉の品質向上を図るとともに、販売拡大についても支援していきます。

お茶の知識とファンを増やして販売拡大！－6次産業推進化事業で茶講座を開催－



お茶について、熱心に聴講中

10月10日、(株)土佐山田ショッピングセンターバリューノア店で、高吾地域6次産業化支援チームの取り組みの一つとしてJAコスモスがお茶講座を開催し、消費者ら15名が参加しました。当日は、日本茶の基礎知識や同JAが販売する6種類のお茶の説明や試飲など、(株)土佐山田ショッピングセンターの協力で実施しました。JA職員による「おいしいお茶の淹れ方」実演後、参加者本人が急須を使って淹れたお茶を楽しみました。参加者からは「お茶のことが良く理解できた」「JAのお茶はおいしかった」「正しく淹れると、甘みと香りが充分に楽しめた」等の感想が寄せられました。

普及所は行事計画の作成や開催当日の協力など、講座開催を支援しており、今後も茶の販売拡大のため支援を継続していきます。

産地拡大に向けトマト研修生を募集～新・農業人フェア（東京）への参加～



トマトの研修生募集中

10月3日、東京渋谷サンシャイン60で新・農業人フェアが開催され、日高村のトマト産地規模拡大のための研修生募集に、普及所、JAコスモス、日高村役場から3名が参加しました。

会場への来客数は1306名で、当ブースには4組5名が来訪し、4組とも「おいしいトマトを作りたい」という意志が強く感じられました。「農業経験がない」という声もあり、来訪者には、11月に実施する産地での体験研修への参加を呼びかけました。

現在、1名の方が体験研修をする運びとなりました。

普及所では、今後も産地の拡大のため、関係機関と連携し、研修生の募集に取り組んでいきます。

新規就農者同士での「学び教えあう場」～JAコスモスニラ部会研究会～



研究会員ほ場で意見交換

JAコスモスニラ部会では、新規就農者6名がニラ研究会を組織しており、会員同士で学び教えあう場としています。本年度からは営農のテーマを自ら考えることができるよう、研究会を自主運営するようにしています。9月25日には会員のほ場で現地検討会を開催し、会員同士が栽培管理について意見交換を行いました。会員からは「他の生産者のほ場を見て意見交換をすることで栽培技術の向上につながる」といった声があり、技術習得に熱心な様子がうかがえました。

今後も普及所では研究会の自主運営が定着するよう、活動への助言などの支援を続けていきます。

土づくりと施肥の基礎知識を習得 ～高吾えいのう塾～



土づくり・施肥について、熱心に受講中

普及所では、新規就農者や就農希望者を対象とした新規就農基礎研修「高吾えいのう塾」を開催しています。

10月14日には第4回目として「土づくりと施肥」について開催し7名が参加しました。当日は、土壌の構造や土づくりの方法、施肥量の計算方法等について講義を行い、参加者からは「効果的な土づくりの方法は?」「土壌の持つ緩衝力とはどのようなものか?」「普段見ることのできない土壌の構造を知ることができてよかった」等の質問や意見が出され、土づくりなどへの関心が高い様子が見られました。

本年度の研修計画は終了しましたが、新規就農者や就農希望者が円滑に営農定着できるよう、次年度も高吾えいのう塾などの研修活動を継続していきます。

ニラのそぐり手不足解消に向けて ～そぐりセンター（仮称）構想説明会を開催～



そぐり手不足解消に向け、真剣に対策を協議

当所管内では、個々のニラ生産者がそぐり手(出荷調製作業員)を雇用していますが、高齢化等によりそぐり手が不足しており、経営規模拡大や新規就農者の経営安定等への課題となっています。

10月2日には、JAコスモスニラ生産部を対象に、定例会とは別に作業の機械化+共同そぐり作業を想定した「そぐりセンター（仮称）構想」説明会を開催し、生産者22名が参加しました。参加者からは「今後も取り組みを継続してもらいたい」「他の手立ても検討してみては?」といった声があがるなど、そぐり手不足解消に真剣な様子が見られました。

普及所では、他産地の状況や処理能力の試算など情報提供を行うとともに、ニラ生産部や関係機関と連携し、そぐり手不足解消に向け支援していきます。

集落営農組織の収益向上に向け「加工用水ブキ」の試験栽培を実施！ ～日高村沖名営農組合～



種茎の貯蔵状態の確認

今年2月に設立した日高村沖名営農組合では、組織の収益源として園芸品目の導入を検討しています。

10月1日には、組織代表者、日高村役場、普及所が、加工用原料の「水ブキ」を取り扱っている高知パック株式会社で、県内の栽培地の状況や生産・収益性などについて聞き取り調査を行いました。また、調査後は沖名営農組合役員会で調査結果の報告と栽培について協議し、県の集落営農普及促進事業費を活用して試験栽培に取り組むこととなりました。

今後、普及所では沖名営農組合、日高村役場と連携し、加工用水ブキの生産性や収益性について調査します。

今年もいよいよ「田村カブ」栽培開始！！ 田村蕪式会社の蕪券発送も始まる！



朝晩涼しくなり、秋の気配が感じられるようになりました。仁淀川町内では、8～9月に播種した田村カブが栽培ほ場へ定植され、順調に生育しています。昨年は町内のNPO団体による田村蕪式会社プロジェクトにより県内外で認知度が高まっており、今年も250口の蕪主に蕪券が発送されました。高齢の生産者が多く、生産や種子の維持も大変な状況ですが、新たな栽培希望者を募集するなど、栽培の継続に向けた活動も始めています。

普及所では、栽培希望者への指導や栽培地域・生産者の違いによる生育・品質への影響調査など安定生産のための支援を継続していきます。